

札幌市立美しが丘小学校の取組

(学校ホームページ <http://www.utsukushi.gaoka.sapporo-c.ed.jp/>)

1. 学校の実態・地域性等

本校では、1・2年生の生活科「雪と遊ぼう」において、「1、2年生が合同で仲良く工夫すること」「寒さに負けず雪や氷を使った活動に取り組み、その楽しさに気付くこと」をねらいに10年以上継続してイグルー作りに取り組んでいる。

また、他学年でも教科や学級活動に雪を題材とした活動を積極的に取り入れている。

校区は北広島のスキー場や滝野すずらん丘陵公園に比較的近く、車でのアクセスがよいので、休日に家族でスキーやそりすべり、冬のイベントを楽しんでいる家庭が多い。また町内会による雪や氷に関するイベントも行われている。

2. 実践 1

(1) 実践単元名

1、2年生 生活科 「雪とあそぼう」 (15 時間扱い)

(2) 目標

【関心・意欲・態度】

寒さに負けず、イグルー作りに取り組もうとする。

【思考・表現】

友達と仲良く工夫しながらイグルーを作ることができる。

【気付き】

雪遊びの楽しさに気付く。

(3) 取組の様子

① 計画を立てよう

オリエンテーリングでどんなものを作りたいか、どんなめあてをもって取り組むかを2年生のリーダーを中心に話し合い計画を立てた。2年生は自分が1年生の時の活動を思い起こし、昨年自分たちが教えてもらったようにやさしく教えたいという願いをもつことができた。1年生はこれからの活動への期待感を膨らませることができた。

② イグルーを作ろう

水を汲む、コンテナに雪を詰める、イグルーまで運ぶ、壁を補強するなどの作業を分担し、「水加減はこのくらいにするとうまくいくよ。」「一緒に持っていこう。」と声をかけ合いながら協力して作業をすることができた。

必要に応じて作戦会議を行い、計画がうまく進んでいるかどうか、変更が必要なことはないかを話し合い、次の制作の時間に生かしていた。

最後の作戦会議では、もっと工夫できることはないかを話し合い、雪だるまを飾ったり、色水で色をつけたりするアイデアを出し合って実行することができた。





③ 完成パーティーをしよう

イグルーの完成を祝うパーティーを行った。できあがった感想を発表した後は、サプライズで雪対策室の「ゆきだるマン」が登場し、子どもたちは大喜びだった。一緒に記念撮影をして完成をお祝いした。

その後は、イグルーの中で温かい飲み物とおやつを楽しみながら、これまでの活動を振り返った。振り返りカードには「1年生が喜んでくれてよかった。」「雪が降る季節は寒いけど、おかげできれいなイグルー作りや遊びができてうれしい。」「また来年も作りたい。」等の言葉があった。

(4) 実践のまとめ

- イグルー作りという「雪」「冬」を活かす活動を通して、雪に親しむ態度を育てることができた。
- 異学年の活動を構成することで、意欲の高まりや責任感が生まれ、寒さを克服して楽しむ原動力となった。
- コンテナに詰める、凍らせる、積むなどの活動を通して、雪の特性（凍る、締まる、溶けるなど）を体感しながら学ぶことができた。



2. 実践2

(1) 実践単元名

とちのみ学級 生活単元 「そり遊びをしよう」（7時間扱い）

(2) 目標

- 冬道をバスと徒歩で移動し、目的地に向かうことができる。
- 他校の児童と交流しながら、そり遊びを楽しむことができる。

(3) 取組の様子

○そり遊びをしよう

三里塚公園まで、バスと徒歩で移動し、4校合同でそり遊びをした。普段とは違う長く大きな坂で、思い切りそり遊びを楽しむことができた。



(4) 実践のまとめ

- 寒い中、行き帰りのバスの待ち時間が多少長くなっても我慢強く待ち、まわりの人に迷惑をかけることなくバスを利用することができた。また、普段より長い距離の雪道も一定のペースで歩き続けることができた。
- そり滑りが苦手だった子も、いつもとは違う大勢の友達がいる環境の中で刺激し合い、そり遊びに挑戦することができた。

5. 研究のまとめ

本校では、実践1、実践2の他に、各学級・学年による集会活動（雪中運動会など）、図工の雪を素材とした学習、体育のスキー学習などを通して、北国札幌ならではの寒さや雪、冬に親しみ、積極的に楽しもうとする態度の育成を目指している。

また、これらの学習を通して、雪や寒さに対する先人の知恵や雪の特性などの知識を体験的に知り、自分の生活に生かすことも目指している。

今後も、教育課程の中で雪に関する学習の明確な位置づけを行うと共に、雪中持久走などの新たな題材、教材の掘り起こしを行い、雪に関する学習の充実を図っていきたい。